

## 造園ノウハウを活かした文化財等の三次元測量と高精度復元工事の提供



株式会社 金岡光輝園  
代表取締役 金岡 秀和

今回は志筑に本社を構える株式会社金岡光輝園の社長金岡秀和様にお話を伺いました。

造園工事、生花店、植物栽培を中心として営業してきた光輝園さんが経営革新に取り組んだのはものづくり補助金があったからだそうです。生花店や植物の栽培部門ではホームセンターや大型店舗との競合により業況の厳しさを考え、造園部門を中心に「売上額重視」から「粗利額重視」に造園工事の営業方針を変える中で「造園技術」と「最新の測量技術」を兼ね備えた取り組みを考えられました。建築業界においてもスクラップ&ビルトの時代は終わり、ストックの活用へ向かっている時代、そして改修工事が新築工事を上回る時代の流れのなかで文化財である妙勝寺の庭園の補修を任されたことが今回の新しい技術の導入に踏み込んだきっかけだそうです。その技術とはレーザー光線での3Dスキャニングでした。庭園の測量は、樹木、灯籠、景石等、個々によって形が異なるものが多く、精度の高い測量も難しく図面にする場合もスケッチや写真で図面の正確さを補いながらお客様に説明をしていた。しかし今回の3Dスキャナを使用することで数

ミリ単位の色情報と位置情報を数値で記録することによりパソコンやタブレット上で様々な角度の立体図が表示可能になった。使用に際して英語のマニュアルしなく習得に苦労はしたもののスキャニングした後の3Dデータはコンピューターの中で自由に表示することができ、コンピューター画面に再現された庭園はあらゆる角度から手に取るように見ることができ、断面までも自由に表示でき、お客様に説明する場合の大きな説得力を發揮します。



できたため経営革新計画書の作成にはさほど手間を必要とはしなかったそうですが、過去のデータから未来予測の数値など数字を記入するには手間取ったと話をされました。ものづくり補助金と経営革新計画は並行してスタートされたのですが経営革新計画も受理されたおかげで金利も優遇され今後の経営にも大きな希望が持てたのではないのでしょうか。自然を相手にする造園業は植物それぞれの個体に気を配り、自然の力を最大限に利用しなければならぬ、長いスパンで見守る仕事のため、時間を経ての庭園の変化を3Dスキャナで、正確にしかも少しの間で数値データとして残されれば、大きな災害の後でも復元が可能になり、細かい指示もできる素晴らしい手段を手に入れたと思います。

測量技術を持った造園技術者という立場はこれまでの施工者・測量技術者・測量図面製作・施工といった数社を使うことより、経費の削減が可能になる。「造園会社でこの様な測量を提供できるのは兵庫県内初で、同業他社に対し優位な立場になった。」と金岡社長は胸を張って話していただきました。

(藤村良男)